

2026年3月期 第2四半期 決算説明会



サンケン電気株式会社

2025年11月12日

**Power Electronics
for Your Innovation**

独自性のある技術、
人と組織のパフォーマンスで成長し、
社会のイノベーションに貢献する
高収益企業の実現

- 2025年度 第2四半期業績
- 2025年度 通期業績予想
- 24中計の取組状況

2025年度 第2四半期業績

(億円)	2024年度							2025年度			上期 前年比		上期 5月予想比	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	金額	増減率	金額	増減率
売上高	498	230	728	233	255	488	1,216	222	188	410	—	—	-28	-6.4%
サンケンコア	224	224	447	216	237	453	900	210	185	395	-53	-11.8%	-31	-7.3%
その他	275	6	281	17	18	35	316	12	3	15	—	—	+3	+28.4%
営業利益	-46	-10	-57	2	16	19	-38	-4	-5	-9	—	—	+2	—
サンケンコア	3	-1	2	4	15	18	20	-3	-4	-7	-8	—	+0	—
連結調整他	-49	-9	-58	-1	2	0	-58	-1	-1	-2	—	—	+2	—
持分法投資/LPS運用損益	—	-20	-20	18	-48	-30	-50	-1	9	8	—	—	—	—
経常利益	-57	-86	-142	34	-35	0	-143	-9	1	-8	—	—	+5	—
特別損益	15	634	649	6	-7	-1	648	3	-3	0	—	—	—	—
当期純利益	-27	507	480	32	-2	29	509	-9	-5	-14	—	—	+27	—
一株当たり当期純利益 (円)	1,987.72						2,119.53	-65.18			—	—	+105.43	—

為替レート 累計平均
(Yen/USD) 3か月平均

155.87 152.79
155.87 149.70

152.65 152.63
152.38 152.57

144.62 146.04
144.62 147.47

※2024年度2Qよりアレグロは連結対象外のため前年比の増減はサンケンコアのみ記載

サンケン
コア

<上期実績 5月業績予想比>

売上 白物家電の中国向け売上急減(2Q)
営業利益 (－)素材価格高騰 (＋)固定費削減・後工程の生産再編に伴う作り込み

連結

<上期実績 営業外損益以下 主な変動要素(億円)>

営業外損益	・持分法投資/LPS運用損益	: + 8	(アレグロ当期純利益の持分損失 -12、LPS運用益+19)
	・為替差損	: - 8	
特別利益	・固定資産売却益	: + 12	(旧ユニット事業撤退に伴うインドネシア工場売却)
	・持分変動利益	: + 12	(アレグロ株式報酬計上に伴う持分変動影響)
特別損失	・特別退職金	: - 24	(石川サンケン -21、サンケンインドネシア -3)
法人税等		: - 5	

※勘定科目に関わらず、金額はプラス・マイナスで表示

※石川サンケンが実施した希望退職の募集は7月に完了 (FY26 固定費削減額は年間 約15億円を見込む)

※300億円の自己株式取得は9月に完了 取得株式(発行済株式数の16.6%)は消却済み

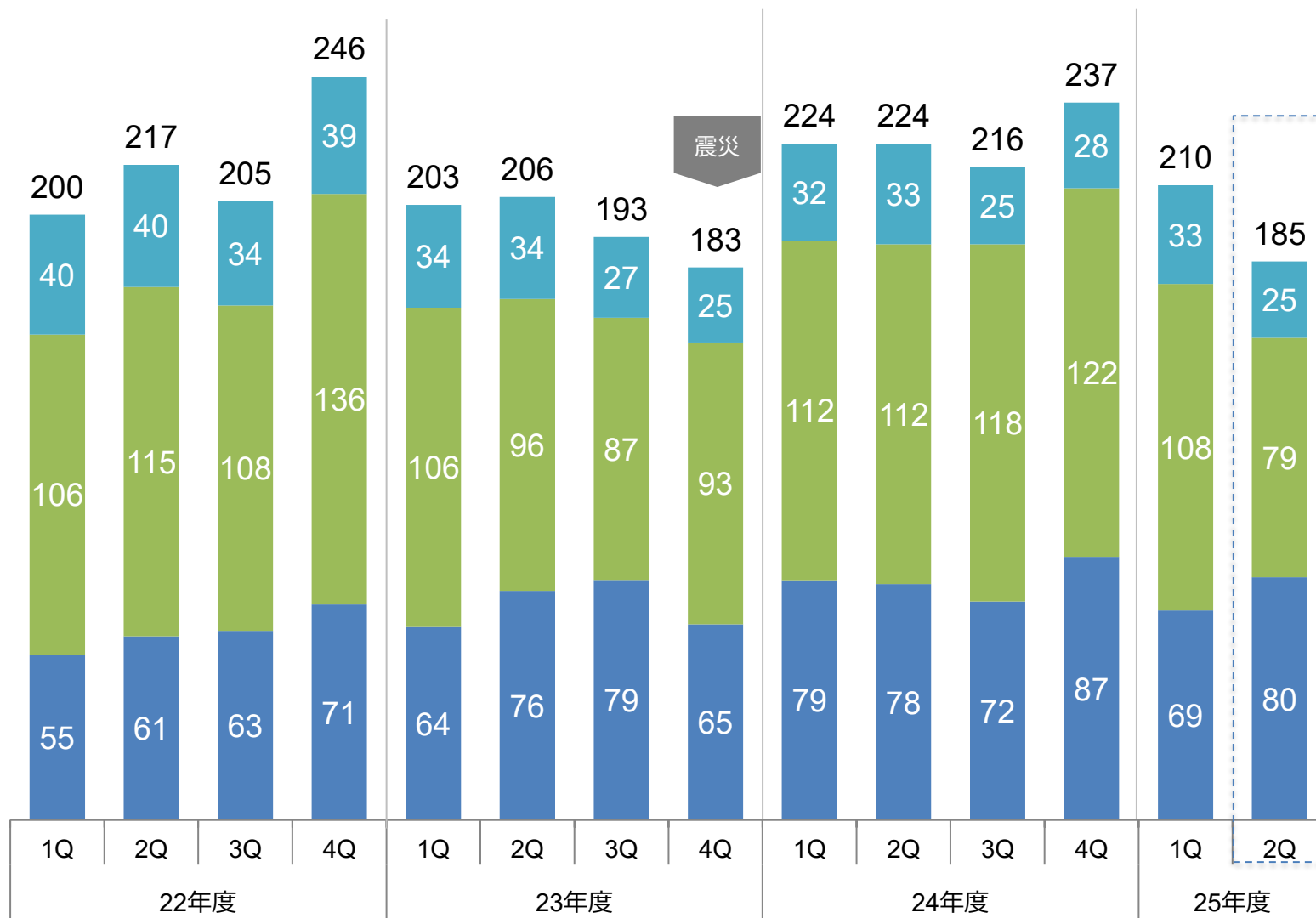
(億円)

サンケンコア市場別売上高 四半期推移

産機・民生

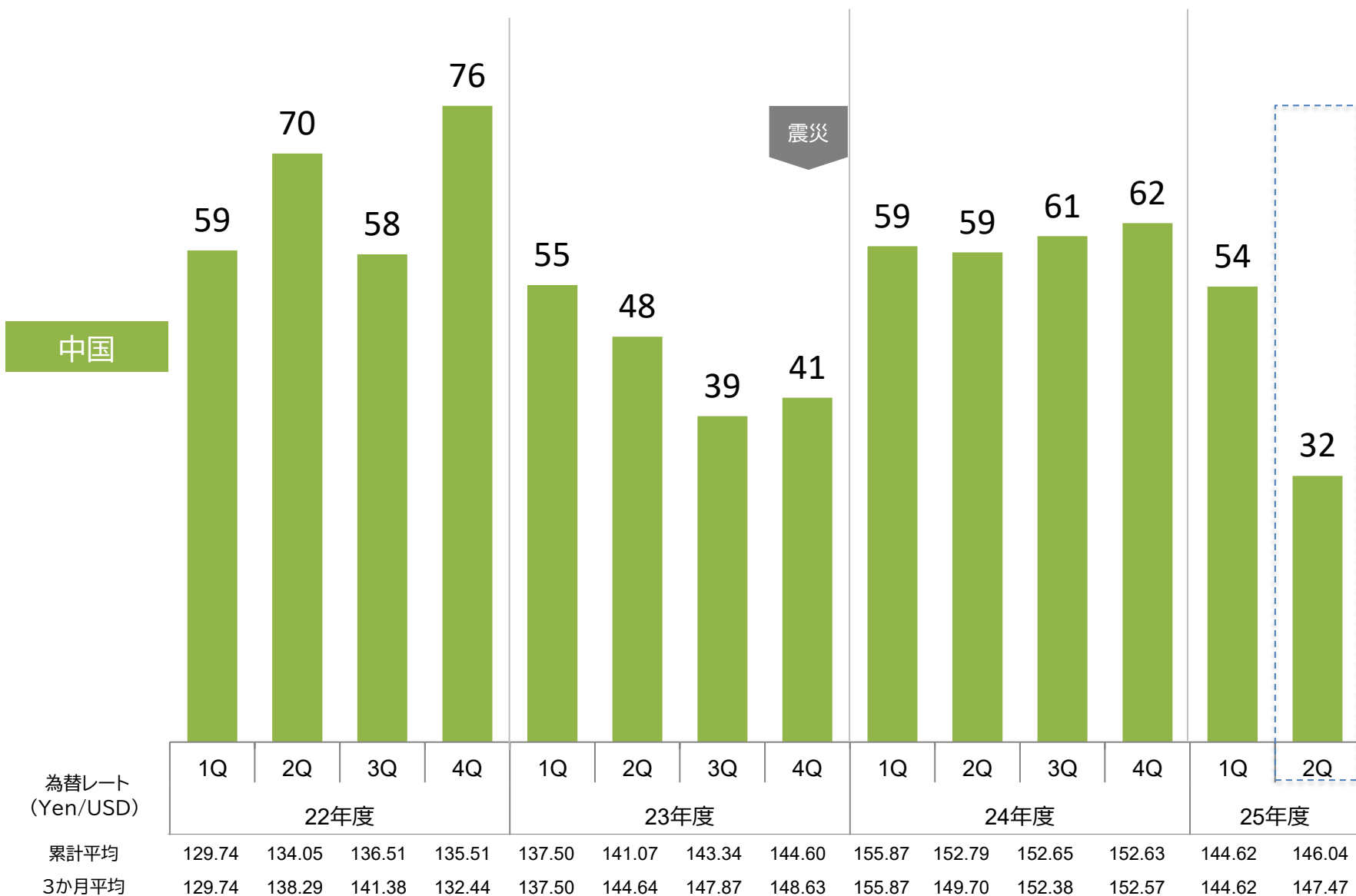
白物家電

自動車

為替レート
(Yen/USD)

累計平均	129.74	134.05	136.51	135.51	137.50	141.07	143.34	144.60	155.87	152.79	152.65	152.63	144.62	146.04
3か月平均	129.74	138.29	141.38	132.44	137.50	144.64	147.87	148.63	155.87	149.70	152.38	152.57	144.62	147.47

(億円)



2025年度 通期業績予想

(億円)	2024年度							25年度					通期 前年比		下期 5月予想比	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予)	通期(予)	金額	増減率	金額	増減率
売上高	498	230	728	233	255	488	1,216	222	188	410	378	788	—	—	—	—
サンケンコア	224	224	447	216	237	453	900	210	185	395	378	772	-128	-14.2%	-78	-17.0%
その他	275	6	281	17	18	35	316	12	3	15	0	15	—	—	—	—
営業利益	-46	-10	-57	2	16	19	-38	-4	-5	-9	-51	-60	—	—	—	—
サンケンコア	3	-1	2	4	15	18	20	-3	-4	-7	-51	-58	-78	—	-70	—
連結調整他	-49	-9	-58	-1	2	0	-58	-1	-1	-2	0	-2	—	—	—	—
持分法投資/LPS運用損益	—	-20	-20	18	-48	-30	-50	-1	9	8			—	—	—	—
経常利益	-57	-86	-142	34	-35	0	-143	-9	1	-8	-75	-83	—	—	-76	—
特別損益	15	634	649	6	-7	-1	648	3	-3	0			—	—	—	—
当期純利益	-27	507	480	32	-2	29	509	-9	-5	-14	-83	-97	—	—	-94	—
一株当たり当期純利益 (円)			1,987.72				2,119.53			-65.18		-452.29	—	—	—	—
為替レート 累計平均	155.87	152.79		152.65	152.63			144.62	146.04		-					
(Yen/USD) 3か月平均	155.87	149.70		152.38	152.57			144.62	147.47		145.00					

2025年度 対ドル想定為替影響(1円変動/年): 売上高 約4億円 営業利益 約2億円 (円安でプラス・円高でマイナス)

- 売上高 : 中国 白物家電の急減を下期に織り込み、減収予想に転換
- 営業利益 : トップライン減少に伴い、後工程再編計画の中で作り込む在庫の積み上げ量を落とすため、生産調整を織り込み大幅な減益予想とした
- 特別損失 : 石川サンケン 震災関連費用 計▲9億円

～マクロ経済の動向～

- 世界経済の不透明感は継続
- 米欧におけるBEV支援政策の転換を機に、EVキャズムが世界的に波及
- 「米中摩擦」をトリガーに、中国における自国製半導体による地産地消化が急速に進展
- 各国経済・景況及び関税影響を慎重に精査中

自動車市場

- CY25 OEM生産台数 92.2M台
→足元EVキャズムでICE向けが堅調
- BEVシフトは長期で不変も、FY26後半と
していた需要の立ち上がりは、FY27以降へ
延伸見込み
- 高電圧補機システムは、BEV搭載モデル向け
需要が一時的に頭打ちとなる見込み

白物家電市場

- 中国でのエアコン完成品在庫はピークアウトも、
7-9月期から前倒しでシーズナリティ調整へ
自国製半導体へのシフトに拍車
- 韓国顧客のCY26生産は、本年比伸長見込み
エアコン用IPMの新規採用で今後純増期待
- 日系顧客のうち、中国向けは減少へ
- 欧米・インド顧客へ拡販深耕中

産機/民生市場

- 産機向け半導体は全般的な需要回復に至って
いない
- グローバルでのTV需要は横ばいで変化なし
- AIデータセンターの空調・液冷システム向けに
当社IPMを拡販予定

予想 サンケンコア市場別売上高 四半期推移

(億円)

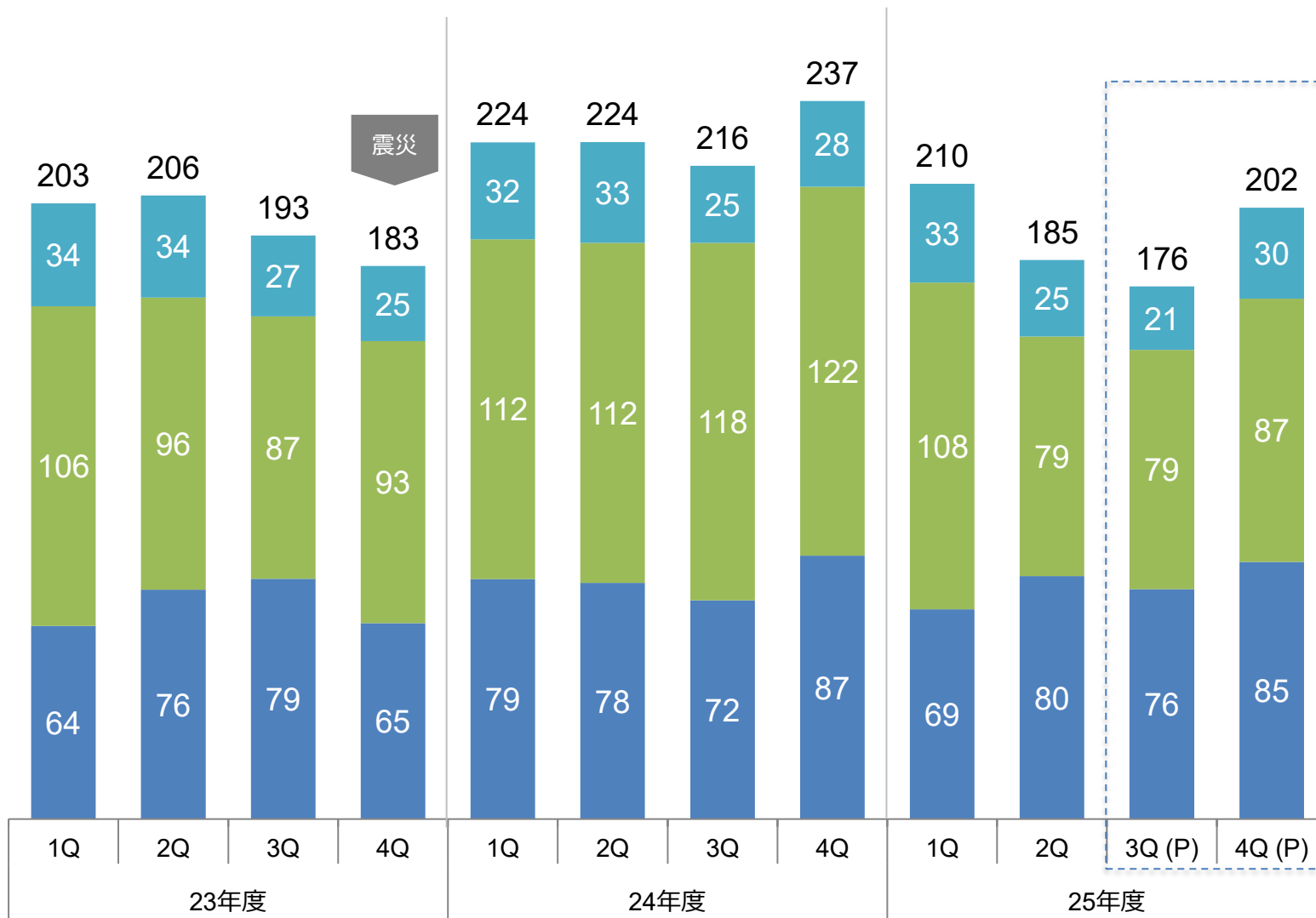
産機・民生

白物家電

自動車

為替レート
(Yen/USD)

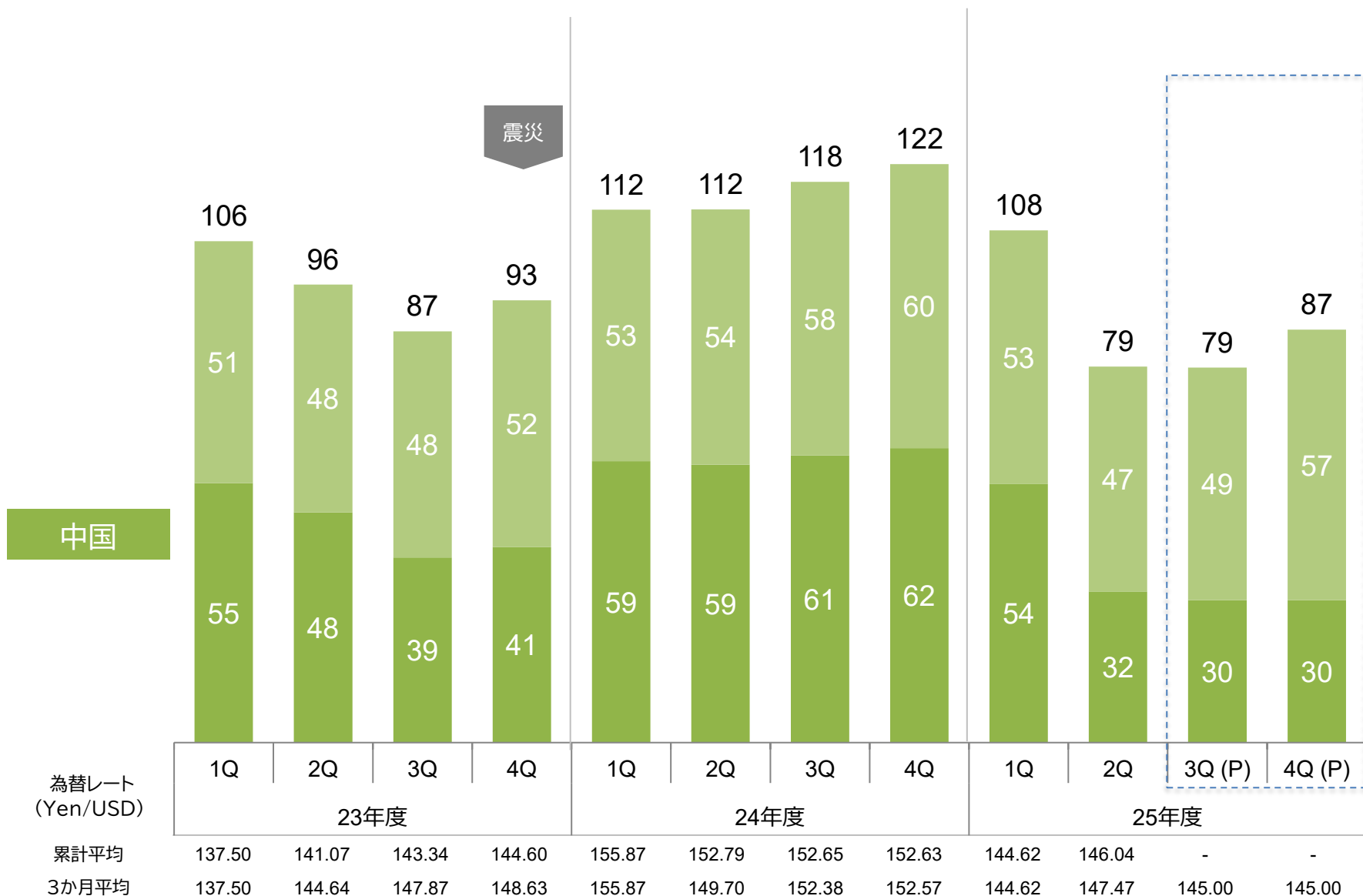
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q (P)	4Q (P)
累計平均	137.50	141.07	143.34	144.60	155.87	152.79	152.65	152.63	144.62	146.04	-	-
3か月平均	137.50	144.64	147.87	148.63	155.87	149.70	152.38	152.57	144.62	147.47	145.00	145.00



予想

サンケンコア 白物家電市場 地域別売上高 四半期推移

(億円)



引き続き健全な財務体質を維持

23年度末からの変化

	<u>23年度末</u>	<u>24年度末</u>	<u>25年度上期末</u>
自己資本比率	31.1%	56.9%	52.9%
D/Eレシオ	1.18x	0.43x	0.57x

※24年度末:アレグロ株式一部売却により変化

24中計の取組状況

24中計骨子

製品戦略

- ・SPP-プラットフォーム
製品とカスタム製品の
両輪で成長

拡販戦略

- ・セグメント別成長戦略に
基づき、自動車・白物・
産機の各市場へ取り組む

利益改善レバー

- ・新製品比率向上
- ・既存製品の収益改善
- ・原価改善

優先して取り組む課題

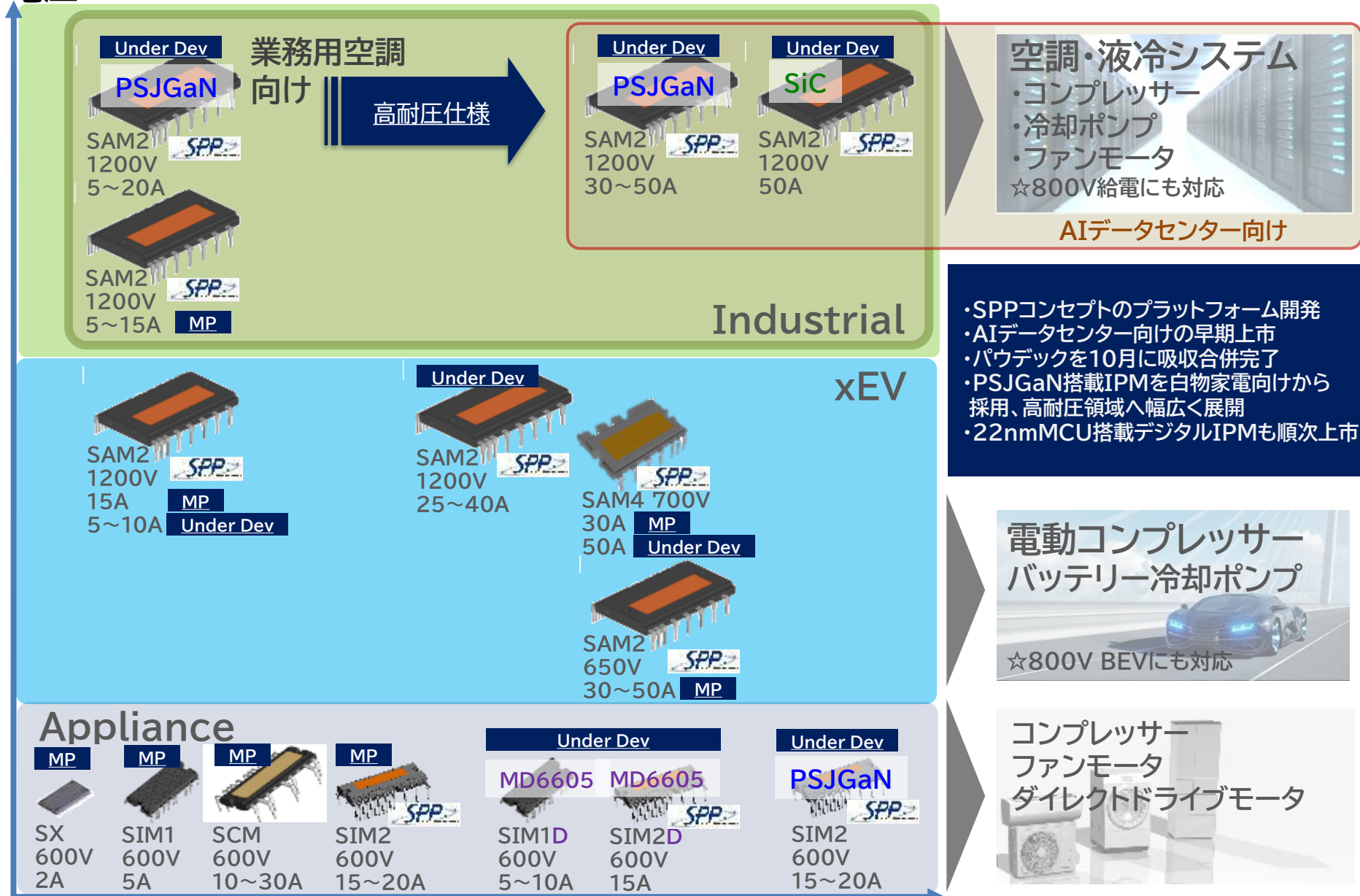
トップライン積み上げ施策
【他地域・新市場拡販】

原価低減：
【固定費削減・経費コントロール最適化】

原価低減：
【変動費削減：材質変更、
プラットフォーム化範囲拡大】

IPMの注力領域とラインナップ

電圧

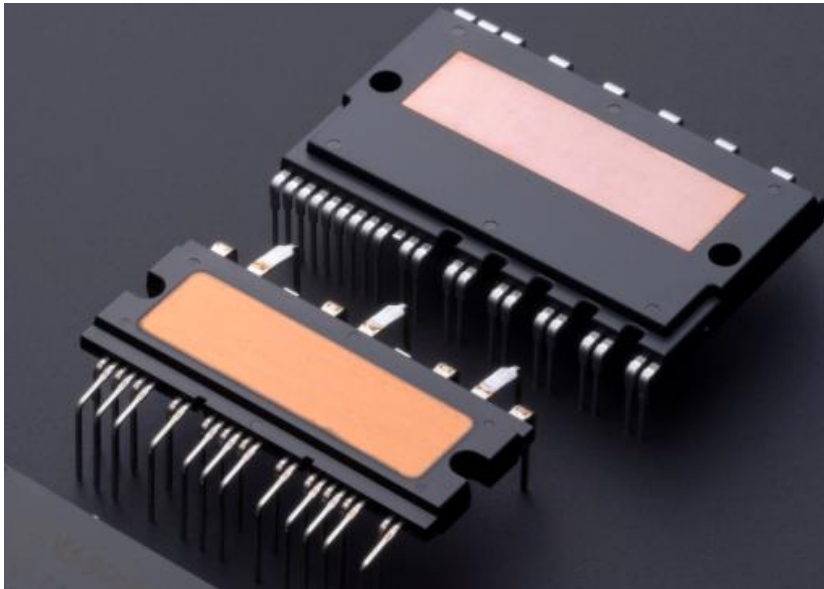


電流

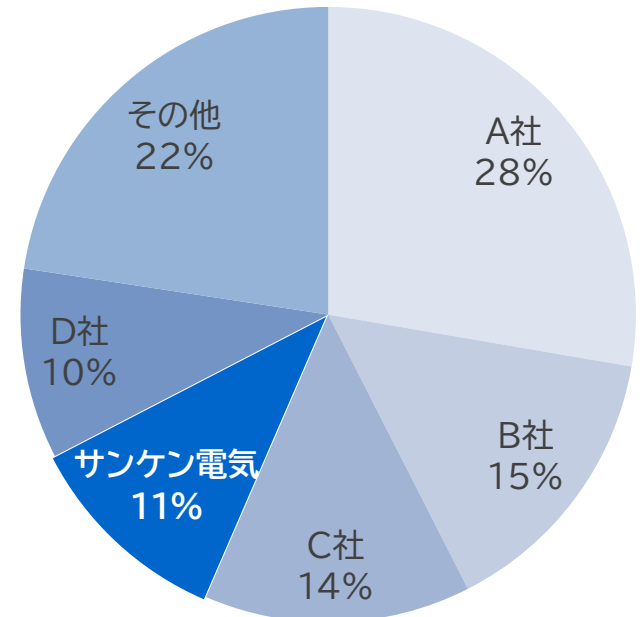
パワー半導体市場でグローバルの地位を確立

IPM(インテリジェント・パワーモジュール)

世界 4 位
国内 3 位



IPMマーケットシェア



富士経済「2025年版 次世代パワーデバイス&パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」より



2026年3月期 第2四半期 決算説明会